2021年（令和3年）
第19号
（11月1日）

平安だより

HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　～なぜ、反省が必要なのか～　京洛支部　大森庸恵

今月の言葉を担当させて頂きます。京洛支部文書布教担当の大森庸恵(みちえ)です。

今月の会長先生のご法話は「なぜ反省が必要なのか」です。自分に至らないところがあると気付いた時に、反省や懺悔が自分の心を育て、ひいては人類の進歩や向上を支えてきたこと、失敗と後悔を繰り返すことがあるのも人生と、教えて頂きました。

私は夫を 10 年前に亡くし、その後、娘夫婦、孫２人と７年間同居しました。娘との間には日々気にかかる事が起こりました。いつも婿が心配りをして娘にアドバイスをし、私に助け舟を出してくれました。今は孫も大きくなり近くに一人で暮らしています。

この間、娘が家に来ました。職場のことでの嫌な思いを話してくれました。私は娘の話を「そうやね」と聞きました。「お母さんも気がつかずに人にしているかもね」と反省しました。すると娘が「そうや、私もあるな。明日謝るわ」と言って帰りました。いつでも反省、懺悔する心が大切で、それは仏性のはたらきによる向上の証であり、菩薩の証明と教えて頂きました。

私は昨年 11 月に心臓の手術をしました。教会長さんから「コロナ禍の中、手術をして頂けるのはとても有難いことですよ」と、お言葉を頂きました。

私は毎月、会長先生のご法話を佼成書き写しノートに書写行と、毎日のありがとうを続けています。そのおかげさまで、不思議なほど落ち着いて手術台に横になり、お題目を唱えられました。

振り返りますと、私は 12 年前に肺がんの手術をしています。こうして２回も手術をして頂きました。娘にも心配をかけました。私は安心して今、暮らせるのは娘がそばいるおかげさまです。

会長先生は良いところも悪いところも含めて、神仏の前に自分のありのままをさらけ出すと心が洗われます。そうして、また、再始動すればいいとおっしゃっています。

朝夕のご供養にみ仏さま、開祖さま、会長先生、ご先祖さまに見守られ、生かされている感謝をもってさせて頂いています。

今回、このお役にと声をかけていただいた時、すぐに「ハイ、わかりました」と受けました。それは今、命をつないで頂き、元気にならせてもらったからです。感謝しかありません。

これからも文書のお役を通して、人さまの話に耳を傾け素直な気持ちでおかげさまを伝えることを日々実践させて頂きます。ありがとうございました。　合掌

あなたのお仕事を教えて下さい　～伏見支部　吉村卓也さん～

Ｑ：仕事先はどちらですか。
Ａ：医療法人社団千春会 介護複合施設 東向日
Ｑ：どのような仕事内容ですか。
Ａ：デイサービス利用者の送迎として運転手を務めています。施設に到着後は、配膳の用意、整髪のお手伝い、次の日の準備など、朝２便と昼２便の送迎の間にさまざまな作業をしています。
Ｑ：過去にはどちらにお勤めでしたか。
Ａ：日本郵便輸送株式会社京都支店で管内便・地域便の郵便物運送の仕事でした。4～10 トンのトラックで昼勤・深夜勤をしながら、教会でのお役をさせて頂いていた。65 歳で退職しました。
Ｑ：仕事中に心掛けていることがあれば教えて下さい。
Ａ：朝礼で医療法人の理念を唱和します。①患者・利用者の自立を支援、良質な医療・看護・介護を提供する。②仕事に誇りと責任を持ち、社会人の向上を目指す。③事業の充実により、住民の健康増進と地域社会の発展に寄与する。

私が日頃、心がけていることは、69 歳になる今日まで、丈夫で働ける身体で生んでくれた両親のお陰と感謝しています。また、朝にご供養をして一日が安全運転で事故がなく無事であります様に仏さまに念じてから出勤します。今までは郵便物という「物」を運んでいましたが、今は「命」を預かっています。常に安全運転を心がけ、車中ではコミュニケーションを大切にしています。信仰しているお陰と感謝しています。有り難いです。

令和３年、私たちは「どこでも道場　祈り祈られ　笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/